

平成三十年度 秋季 鎌倉俳句&ハイク

季節 「秋」

期間 平成三十年八月一日～平成三十年十月末

投句数 三、四四〇句

特選三句

天

百僧の紫衣や緑衣や十夜寺

東京都大田区 荻野 操子

地

大仏の背の窓開く秋うらら

東京都北区 今井 智子

人

迷い込む路地行き止る松手入

神奈川県横浜市栄区 荻野 樹美

入選句

一般の部

割れまいと西瓜踏ん張る砂の上

大阪府豊中市

安藤 知明

そこはかと蚊遣の匂ふ弓場かな

東京都武蔵野市

池田 章子

天高く鎌倉五山鳶の笛

神奈川県横浜市泉区

江口 隆人

秋風と共に山門くぐりぬけ

神奈川県横浜市栄区

海老原 美英

凜として桜紅葉の人力車

神奈川県横浜市鶴見区

大嶋 辰之

とは言えど小町通りの残暑かな

神奈川県足柄上郡

尾崎 竹詩

大空をキャンバスにして鳥渡る

神奈川県横浜市旭区

加瀬 伸子

古都は秋人力車は谷戸を駆けぬける

神奈川県鎌倉市

金井 千恵子

秋の灯の点る書院や開山忌

神奈川県横浜市南区

岸本 隆雄

十夜鉦けたたましくもありがたし

茨城県牛久市

小山 教江

退院す風に光に秋の声

神奈川県藤沢市

笹川 希伊子

朝顔を数えて通るランドセル

神奈川県鎌倉市

佐藤 利一

鎌倉の奥うつくしきつわの花

埼玉県飯能市

塩川 洋子

朝顔や爺の自慢の四つ目垣

神奈川県鎌倉市

島田 康三

唐門に続く石段萩の風

神奈川県横浜市鶴見区

武市 洋子

源氏山帰燕の空の暮れのころ

神奈川県横浜市港南区

田阪 武夫

尼寺の低き潜り戸花芙蓉

埼玉県狭山市

古谷 彰宏

虚子の墓ここよここよと小鳥かな

奈良県桜井市

村手 圭子

山門の郵便受や赤とんぼ

神奈川県横浜市青葉区

山下 省三

爽やかに空を見上ぐる修行僧

埼玉県比企郡

渡邊 俊一

(順不同)

入選句

子どもの部

秋風を起こして走る江ノ電よ

埼玉県越谷市

大野

充嬉

紫陽花の青に鎌倉思い出す

埼玉県所沢市

日下部

晴彦

揺さぶられ線香花火消えていく

埼玉県所沢市

庄司

果央

大仏の目の前に降る紅葉かな

神奈川県鎌倉市

佐々木

奏太郎

大仏の見つめる先のもみぢかな

神奈川県鎌倉市

吉田

拓生

朝起きて最初の音は蝉時雨

神奈川県鎌倉市

富田

涼

大きな口いっぱい見せる燕の子

神奈川県鎌倉市

中村

優馬

帰り道この指とまれ赤とんぼ

神奈川県鎌倉市

浅田

誠

墓参り手を合わせたら会えるかな

神奈川県鎌倉市

稲葉

貫汰

坂道をとんぼと走る人力車

茨城県つくば市

下村

亮

(順不同)